



火の国 阿蘇の
恵みのブランド

阿蘇 zen Aso City

東京で洋菓子の修業をしていた。

父の要請にしたがつて阿蘇に戻る。父は脱サラで煎餅屋を始めた人だ。洋菓子をめざす若者は、自分が何を作っていけばよいのか悩む。

そしてフランスへ単身飛ぶ。

そこでの国のパティシエからこう言われた。

「貴国には和菓子というすごい文化があるじゃないか」

青木幸治さんが筋金入りの

和菓子職人の道を歩き始めた瞬間でした。

三十歳を迎える前に父が他界する。経営は難しいかもしれない。が、どうせ倒れるなら夢を遂げて倒れよう。

そこからは、困難の山を踏み分ける日々だ。

すこしずつ、半歩ずつ、その情熱が成果をあげ、

結実したのが「ゆずもえ」という名の阿蘇を代表する銘菓だ。

全国菓子博の最高賞を得る。

「小さなこの菓子里に、多くの方々のさまざまな応援が染みんでいます」

菓匠久幸堂 青木幸治

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。